

個別の指導計画作成マニュアル

平成27年度改訂版

I 迫支援学校における個別の指導計画とは

本校での教育課程において、児童生徒の実態に応じた、きめ細かな指導ができるように作成されるものです。

個別に教育課程を作成する個別の教育計画（IEP）とは異なります。

従って目標設定や指導内容の選択にあたっては、本校教育計画にある指導の形態の目標に実態を加味して設定したり、教科別指導内容表から実態に応じて指導内容を選択したりすることが必要になってきます（自立活動を除く※1）。

※1：各指導の形態の目標や指導内容はあらかじめ決められた項目から、児童生徒の実態に応じて選択する。これに対し自立活動は児童生徒の実態から、障害による困難を推測し、自立活動の指導内容を必要に応じて組み合わせることで生活や学習上の困難を克服する指導を設定する。このように各指導の形態は部品が準備されていて実態に応じて組み立てるのに対し、自立活動は実態を基に部品から作り上げる作業と似ている。

II 迫支援学校における個別の指導計画の構成

1. 様式1-1 児童生徒の実態の概要（個別の教育支援計画A票プロフィールを参照）
2. 様式2-1 個別の指導計画（集団版）※2
3. 個別の指導計画（個別指導版）※3
 - 1) 様式2-2 日常生活の指導
 - 2) 様式2-3 国語
 - 3) 様式2-4 算数・数学
 - 4) 様式2-5 自立活動

※2：個別の指導計画（集団版）は年間指導計画と自立活動の個別の指導計画を加えることで個別指導版と同様の機能を果たすものとする。

※3：個別指導版は個別指導であったり能力別の小集団の指導を抜き出して作成するものとする。

III 個別の指導計画の作成方法

1. 児童生徒の実態の概要

様式1-1 個別の教育支援計画A票に準じます。個別の教育支援計画と一緒にファイリングすることで個別の指導計画の実態の概要に替えるものとします。

2. 個別の指導計画の様式

1) 集団版

様式 2-1

個別の指導計画 (集団版)

小学部○年○組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
---------	----	-------	----	--------------------

学習場面	年間指導目標	指導内容・方法
遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに親しみながら、活発に身体を動かすことができる。 ・友達とかかわりながら、協力して準備や片付けに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちと競争する場面を取り入れたり、しゃがむ、立つなど大きく身体を動かす遊びを取り入れたりする。 ・特に準備や片付けで友達と一緒に物を運んだり、教具を広げたりする活動を設ける。
生活単元学習	<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記載してください。</p> <p>○学習場面→詳細はP 6 指導の形態+道徳+特別活動+総合的な学習の時間 ※集団で指導する指導の形態について記載します。 ※当該児童生徒が学習している指導の形態を記載します。 ※選択していない指導の形態には斜線をひいてください。 ※小学部には総合的な学習の時間はありません。 ※中学部, 高等部は「保健体育」の表記になります。</p> <p>○年間指導目標→詳細はP 6 教育計画にある各指導の形態のねらいを基に, 児童生徒の実態を加味し, 個別化, 構造化された目標を記載します。</p> <p>○指導内容・方法→詳細はP 7 児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にし, 個に応じた指導方法を設定します。</p> <p>○書式 書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大ききで使用してください。 サーバーにある書式を基本としますが, 行数, 文字数の多少の増減は構いません。 記載量が多い場合, 2枚にわたることもあります。 概要ですので, 日常生活の指導, 国語, 算数・数学, 自立活動容は詳細版に記載してください。</p>	
音楽		
体育		
道徳		
特別活動		

1) 日常生活の指導

様式3-1

個別の指導計画（日常生活の指導）

小学部	1年	1組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
-----	----	----	----	-------	----	--------------------

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動に参加することで学校生活のリズムに慣れる。 ・教師と一緒に身辺処理に取り組みながら、望ましい生活習慣を身に付ける。 ・朝の会や帰りの会などで教師と一緒に活動に取り組む中で教師の指示を意識した行動を増やすことができる。
--------	---

指導項目	指導目標	指導内容・方法
衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に着替えに取り組み学校生活のリズムになれる。 ・脱ぐ、着るなど教師と一緒に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意の集中を維持できるようにカーテンやついたてで仕切られた一角を設け、モデルとなる児童2～3人と一緒に着替えに取り組む。 ・袖口をあげる、ズボンを半分下ろすなど、動作のきっかけを教師がすることで自分で着替えに取り組める場面を増やす。
身の回りの整理		<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記載してください。</p> <p>○年間指導目標→詳細はP6 個別の指導計画（教育課程全般）にある日常生活の指導の年間指導目標と同じにしてください。</p> <p>○指導項目→詳細はP8 基本的にはサーバーにあるものを使いますが、実際の指導の状況に合わせて指導項目を増やすことはことも可能です。また身辺処理がほとんどできる児童生徒や重度の児童生徒については指導する項目が少なくなると思いますのでその際は斜線をひいてください。</p> <p>○指導目標 児童生徒の実態に応じて指導目標を設定します。その際、指導内容表の生活科を中心に社会科の集団生活ときまり、理科の人体、職業・家庭科などを参考にさせていただくと目標の設定がしやすいです。 ※日常生活の指導は合わせた指導なので必ずしも指導内容表と一致するとは限りません。</p> <p>○指導内容・方法→詳細はP7 児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして、個に応じた指導方法を設定します。 目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。</p> <p>○書式 書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt～9ptの大きさに使用してください。 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p>
食 事		
排せつ		
清 潔		
朝や帰りの活動		
あいさつ		
係の仕事		

3) 国語科, 算数・数学科

様式3-2

個別の指導計画 (国語)

小学部	1年	1組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
-----	----	----	----	-------	----	--------------------

年間指導目標	・意思を伝え合う必要性に気づき, 非言語的な手段も含めて意思を表現する能力と態度を身に付ける。
--------	---

題材名と指導目標	国語科の観点	指導方法	期間 時数
「返事をしよう」 ・教師から名前を呼ばれたり, 言葉を掛けられたりしたときに発声やジェスチャーで応じることができる。	聞く・話す	・教師と手を合わせる, 発声するなど段階に合わせて呼名に応じるようにする。 ・視線を合わせることの苦手が推測されることから, 教師が認知されてればアイコンタクトは要求しない。 ・手を合わせる, 発声など教師がモデリングすることで模倣させる。	通年
「これなあに」 ・教師が読み上げた名前に応じて絵カードや写真カードを選んだり指さしたりすることができる。	聞く・話す	<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>○年間指導目標→詳細はP 6 個別の指導計画 (教育課程全般) にある国語, 算数・数学の年間目標と同じにしてください。</p> <p>○題材名と指導目標→詳細はP 8 題材名は実際に児童生徒に指導する際の題材名を記入してください。 指導目標は国語科, 算数・数学科の指導内容表を参考にして記入するようにしてください。</p> <p>○観点→詳細はP 9 国語科は「聞く・話す, 読む, 書く」の中から, 算数・数学科は「数と計算, 量と測定, 図形・数量関係, 実務」の中から該当する観点を記入してください。両教科とも各観点からバランス良く指導内容を選択することを原則にします。児童生徒の実態により, 選択できなかった観点がある場合は, 記録の方に記載し, 引き継ぎの材料としてください。</p> <p>○指導方法→詳細はP 10 児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして, 個に応じた指導方法を設定します。 目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。</p> <p>○書式 サーバーにある書式を基本としますが, 行数, 文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさを使用してください。記載量が多い場合, 2枚にわたることもあります。</p>	
「絵本をみよう」 ・教師と一緒に絵本などを楽しむ。	読む		
「書いてみよう」 ・様々な筆記用具に親しむ。	書く		

4) 自立活動

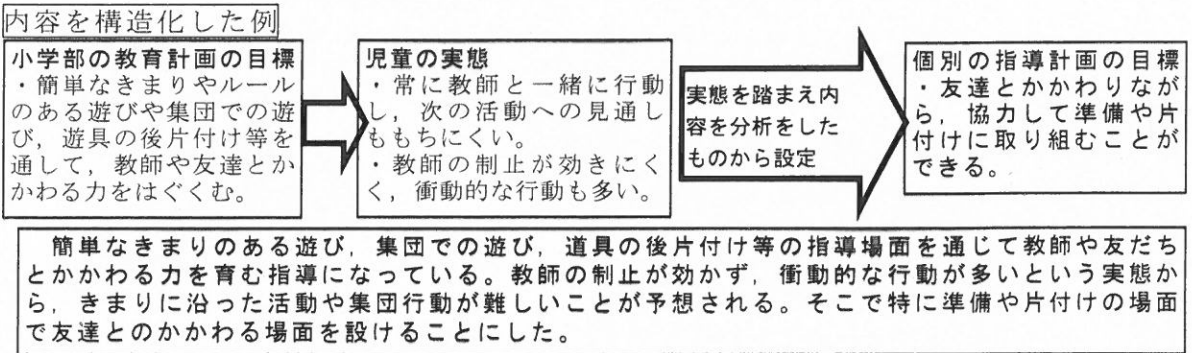
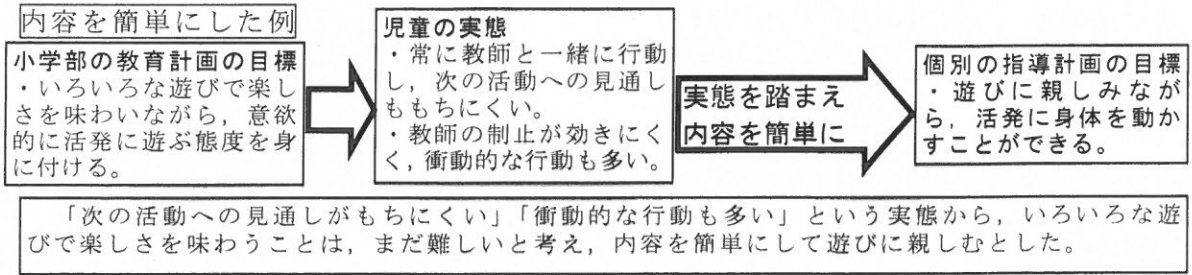
様式2-2

個別の指導計画（自立活動）

小学部	1年	1組	氏名	△△△△△	担任	□□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
-----	----	----	----	-------	----	---------------------

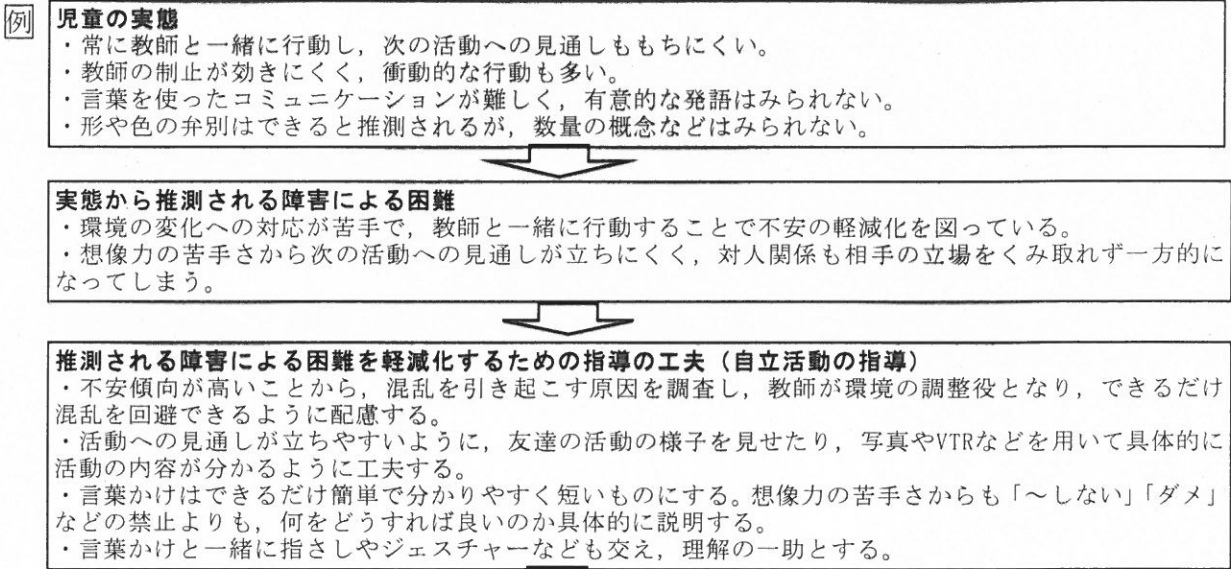
年間指導目標	学校生活に慣れ、見通しをもって落ち着いて生活することができる。
--------	---------------------------------

指導目標	内容項目	指導内容・方法	指導の形態 期間
・学校生活への見通しをもつことができる。			
<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>・○年間指導目標→詳細はP10 個別の指導計画（教育課程全般）にある自立活動の年間目標と同じにしてください。</p> <p>○指導目標→詳細はP10</p> <p>○内容項目→詳細はP11</p> <p>○指導内容・方法</p> <p>○指導の形態 期間</p>			



4) 指導内容・方法の設定

個別の指導計画では個々の目標を達成するために、個別化された指導内容、指導方法を設定していく必要があります。その際、児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にすることで、個に応じた指導方法を設定できると考えられます。



様式 2 - 1

個別の指導計画（集団版）

小学部〇年〇組 氏名 △△△△△ 担任 □□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●

学習場面	年間指導目標	指導内容・方法
遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに親しみながら、活発に身体を動かすことができる。 ・友達とかかわりながら、協力して準備や片付けに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と競争する場面を取り入れたり、しゃがむ、立つなど大きく身体を動かす遊びを取り入れたりする。 ・特に準備や片付けで友達と一緒に物を運んだり、教具を広げたりする活動を設ける。

4. 個別の指導計画の作成方法（個別指導版）

個人やグループなど、個別指導に近い指導の形態については個別の指導計画（個別指導版）を作成します。日常生活の指導、国語、算数・数学、自立活動について作成します。このうち、日常生活の指導と自立活動については全児童生徒分、国語と算数・数学については選択している児童生徒分のみ作成します。

1) 日常生活の指導

(1) 指導項目

様式では衣服の着脱、身の回りの整理、食事、排せつ、清潔、朝や帰りの活動、あいさつ、係の仕事等の指導項目がありますが、清掃など項目を増やすことも可能です。身辺処理が自立していたり、実態が重く、指導が難しい項目などは指導目標、指導内容・方法の欄に斜線をひいてください。

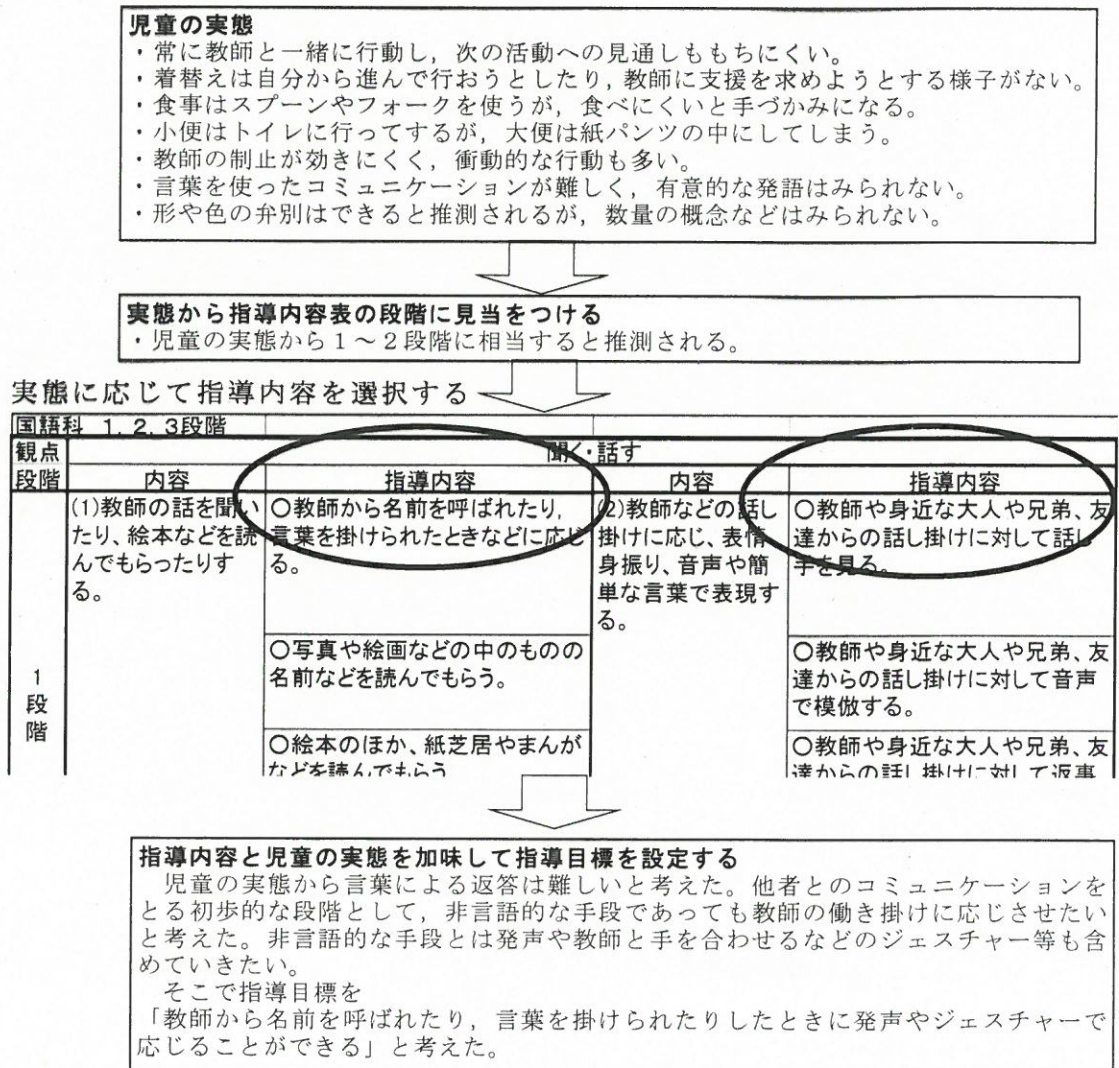
2) 国語科、算数・数学科

(1) 題材名と指導目標

題材名は実際に授業で用いる題材名を記入してください。児童生徒にとって何をするのか分かりやすい名前を付けるのが原則です。

指導目標は指導内容表をもとに児童生徒の実態に応じた指導内容を選択し、ねらいとする行動が具体的に分かるように設定すると分かりやすいと思います。

例



(2) 観点

国語科は「聞く・話す、読む、書く」の中から、算数・数学科は「数と計算、量と測定、図形・数量関係、実務」の中から該当する観点を記入してください。

両教科とも各観点からバランス良く指導内容を選択することを原則にします。これは学習指導要領で示されている各教科の内容は全ての児童生徒で取り扱われることが原則にされているからです。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

第1章 総則

第2節 教育課程の編成

第2 内容等の取扱いに関する共通的事項

6. 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部においては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及び職業・家庭の各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、すべての生徒に履修させるものとする。また、外国語科については、学校や生徒の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。
7. 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科（小学部においては各教科の各段階。以下この項において同じ。）に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。また、各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせて指導を行う場合には、各教科、道徳、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。

しかしながら児童生徒の実態により各教科の内容を取り扱うことが困難な場合が多くあります。平成21年特別支援学校学習指導要領解説総則等編のP214にある「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」では次のように記されています。

今回の改訂では、一人一人の実態に応じた学習を行うことを重視する観点から…（中略）…「障害の状態により特に必要がある場合」について示したものであり、重複障害者に限定した教育課程の取り扱いではないことに留意する必要がある。

また同P217では「重複障害者」の規定を以下のように示しています。

重複障害者とは、当該学校に就学することになった障害以外に他の障害を併せ有する児童生徒であり、…（中略）…しかし教育課程を編成する上で、以下の規定を適用するに当たっては、指導上の必要性から、必ずしもこれに限定される必要はなく、言語障害、自閉症、情緒障害等を併せ有する場合も含めて考えてもよい。

つまり単一障害の場合でも、障害の状態により特に学習が困難な児童生徒については教育課程上、重複障害者の扱いができるということになります。

その上で同P219では以下の取り扱いについて示されています。

3. 重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主とした指導を行うことができるものとする。

つまり単一障害の児童生徒でも、障害の状態により特に学習が困難な児童生徒については各教科の目標や内容の一部、または全てを自立活動を主とした指導に替えることができるようになります。ここで大切なのは教師の指導上の必要性や教育課程編成上の必要性から自立活動に替えるわけではなく、あくまで児童生徒一人一人の実態に応じた学習を行うための取り扱いになります。従ってこれらは個別に取り扱いを検討していくことになります。

児童生徒の実態により、自立活動の指導に替えて取り扱わなかった観点がある場合は、記録の方に記載し、引き継ぎの材料としてください。

(3) 指導方法

目標を達成させるための指導の方針や手立てを簡潔に記入します。児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして、個に応じた指導方法を設定します。目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。

例

自立活動の指導

- ・不安傾向が高いことから、混乱を引き起こす原因を調査し、教師が環境の調整役となり、できるだけ混乱を回避できるように配慮する。
- ・活動への見通しが立ちやすいように、友達の活動の様子を見せたり、写真やVTRなどを用いて具体的に活動の内容が分かるように工夫する。
- ・言葉かけはできるだけ簡単で分かりやすく短いものにする。想像力の苦手さからも「～しない」「ダメ」などの禁止よりも、何をどうすれば良いのか具体的に説明する。
- ・言葉かけと一緒に指さしやジェスチャーなども交え、理解の一助とする。

指導方法

- ・教師と手を合わせる、発声するなど段階に合わせて呼名に応じるようにする。
- ・視線を合わせることの苦手感が推測されることから、教師が認知されていればアイコンタクトは要求しない。
- ・手を合わせる、発声など教師がモデリングすることで模倣させる。

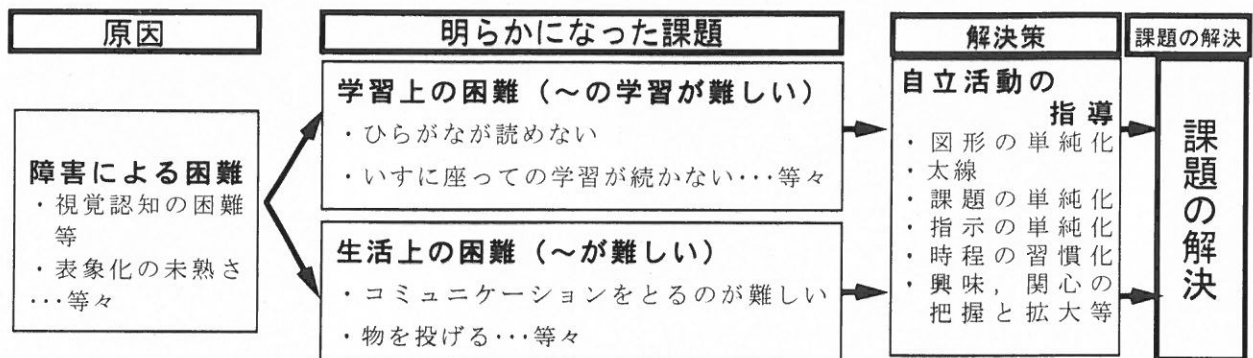
3) 自立活動

(1) 本校の自立活動のねらい

学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障害による学習上又は、生活上の困難を主体的に改善、克服するために必要とする知識、技能、態度及び習慣を養い心身の調和的発達の基盤を培うことにより、自立を目指す。

(2) 年間指導目標（自立活動）

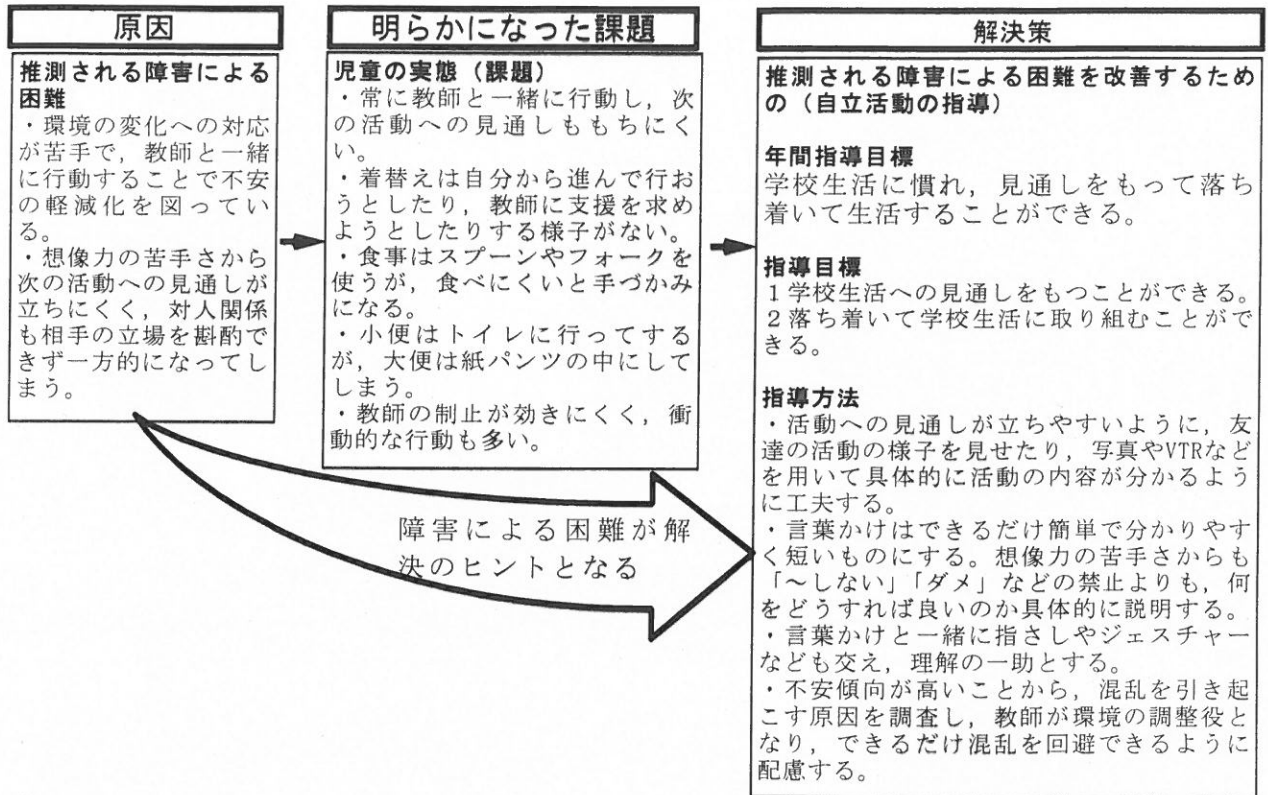
自立活動は障害による生活上、学習上の困難を克服・改善する指導です。



学習上の困難、生活上の困難を解決するためには、その原因となる障害による困難を推測していくことが重要です。それが指導の方針や指導方法と密接な関連があるからです。その上で学習上、生活上の困難に対応した指導をするためには、どんなベースが整っている必要があるかを考え、それを目標にします。

児童生徒の障害による困難は短期で改善できるようなものではなく、本人の努力でカバーすることが難しいときも多くあります。長期にわたって配慮を要することが多いため、指導の一貫性を保てるようにしてください。

例



例では重度の知的障害がある児童を想定しています。教師の指示理解や身辺自立に課題があります。これ自体は学習上の困難になります。これを改善するためには、まずは情緒面での落ち着きが前提と考えました。その上で学校生活のおおまかな見通しや教師とのラポートが深まることで、教師の指示を受け入れ、学習する環境が整うと考えました。そこで年間指導目標を「学校生活に慣れ、見通しをもって落ち着いて生活することができる。」とし、指導目標を「学校生活への見通しをもつことができる。」「落ち着いて学校生活に取り組むことができる。」と分析しました。

実態では様々な学習上の困難が見られますが、なぜこのような困難がみられるのか原因を推測すると次の2点が考えられました。一つは環境の変化への対応が難しく不安に陥りやすいこと、もう一つは活動や相手を意識する関心が低かったり、それらをイメージすることが難しかったりするため、活動の見通しや相手へのコミュニケーションが難しいのではないかと考えました。

そこで目標に迫るために見通しをもたせるための指導、言葉かけをする際の配慮、情緒の安定を保つための配慮などを基本として指導方法を考えました。

(3) 内容項目（自立活動）

自立活動の内容は六つの区分の下、26項目に分かれています。

国語、算数・数学の各教科はそれぞれの観点からバランス良く指導内容を選択することを原則としていますが、自立活動は児童生徒の実態に応じて必要な項目を組み合わせながら選択するようになっていきます。全ての項目を指導する必要はありません。

IV 個別の指導計画の評価について

1) 集団版

様式 3-1

指導の記録 (1学期)

中学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
学習場面	学習の様子と評価		今後の課題と手だて	
生活単元学習	<p>・「お楽しみ会をしよう」では自分がやってみたい活動としてダンスをあげることができた。皆の賛同を得て活動の中に組み入れた。自分の希望した活動が組み入れられたことで、係活動など積極的に取り組む様子が見られた。ダンスはいつ?と期待感を表すことも多く、楽しく活動に取り組むことができた。</p>		<p>・失敗や困難を予期させる活動には消極的になる様子が見られる。</p> <p>・本人の意思を確認する場面を増やしつつ、苦手そうな活動でも教師や級友と一緒に取り組むことで安心できることを説明していく。</p>	
作業学習	<p>・学習集団の実能からにたたらや手びわりでの成型が</p>		<p>・成就感を思わせる発言や表情の</p>	
音	<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>○学習の様子と評価 目標に対する教師の手だて、児童生徒の様子、結果が分かるように記入します。楽しい、うれしいなどの児童生徒の心情の見取りでは表情や発言、仕草など見取りとなる根拠もあると分かりやすくなります。</p> <p>○今後の課題と手だて 指導中に生じた課題、目標に迫るための次のステップなど記載し、その解決のための手だてを記入します。</p> <p>○書式 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさに使用してください。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p>			

2) 個別指導版 (日常生活の指導)

様式3-1②

指導の記録 (日常生活の指導) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
指導項目	指導目標	学習の様子と評価	今後の課題と手立て	
衣服の着脱	<p>・衣服の裏表、前後に気をつけながら着脱をする。</p>	<p>・衣服の模様が似ているときには自分でこれでいいのか聞くときが多かったが、洋服のタグに注意させることで自分で判断できることが増えてきた。</p>	<p>・教師に聞く機会が減ってきているので、指導を継続していく。</p>	
音	<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>○学習の様子と評価 目標に対する教師の手だて、児童生徒の様子、結果が分かるように記入します。楽しい、うれしいなどの児童生徒の心情の見取りでは表情や発言、仕草など見取りとなる根拠もあると分かりやすくなります。</p> <p>○今後の課題と手だて 指導中に生じた課題、目標に迫るための次のステップなど記載し、その解決のための手だてを記入します。</p> <p>○書式 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさに使用してください。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p>			

3) 個別指導版 (国語・数学)

様式3-3②

指導の記録 (国語) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

題材名と指導目標	国語科の観点	指学習の様子と評価	今後の課題と手だて
名前を読もう ・自分の名前や身近なものの名前の平仮名を拾い読みする。	読む	・音節の構成が分からないため、音と文字の一致が難しい。文字は線書きだと認知が難しいようであった。表にイラスト、裏にイラストの頭文字が平仮名で印刷されカードを用いて指導した。数枚のカードを並べ、イラストの名前を言わせてからカードを裏返し、イラストの名前と頭文字を話して、該当するカードを選ばせるようにした。頭文字の音や文字の形が認知できないため、正答は少ない。音節の構成の理解をまず優先させた方がよいかと考える。	・一文字で一音を理解できるように、フラッシュカードなどを活用して練習する。
これなあに ・具体物や絵カード等と単語や文字カードのマッチングにより人やものの名前は文字で表せることを知る。	書く	・音節の構成を理解したり、文字と音節の対応が困難であるため、記号として文字を認知することが難しい。イラストカードと文字のなぞり書きなどしたが、文字としての機能の理解は困難であった。	・なぞり書きを中心にA4版に数文字程度の大きさで練習する。

4) 個別指導版 (自立活動)

様式3-2②

指導の記録 (自立活動) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

指導項目	学習の様子と評価	今後の課題と手だて
・心理的な負担を上手に逃がすための手段を身に付ける 2- (1) 2- (3)	・授業中は離席などいけないことがわかっているのに、席について授業に参加するように促した。授業の活動に応じて独り言を話すことも多いが、席について授業に参加することができた。休憩時間にDVDを見たり、音楽に合わせてダンスしたりするときにトイレに行こうとする様子が見られた。休憩時間なのでそれは許可するようにしていた。	・身体を動かす習慣を身に付け気持ちの発散を図る指導が必要かと思われる。 ・本人の言葉での発信を共感的に受け止めつつも、リラックスできる状況、小さなストレスに耐性を付ける状況など興味・関心に応じた状況を使い分け、落ち着いた生活ができることを目指して指導する。 ・引き渡し訓練など家族が迎えにくる場面で自分の家族が来ないと落ち着かなくなるときがあった。見通しが不明な中での出来事だったので、そのような場面ではできるだけ早めに予告をし、混乱なく施設に引き継げるようにしていきたい。

IV 個別の指導計画の作成の日程

月	学級担任の仕事内容	教務部の仕事内容
4月	○児童生徒の実態の概要（個別の教育支援計画A票）を作成 ※家庭訪問時に保護者と内容を確認	○作成日程の提示 ○作成説明会の実施 ○家庭訪問計画の提示
5月	○個別の指導計画の作成と実践（教育課程全般，詳細版）	○個別面談計画の提示
6月	※個別面談 個別の指導計画の作成状況の報告と参考になる事項の聴取	○作成会議日程の提示
7月	○個別の指導計画作成会議（3日間） 設定日以外でも提出日までに任意に持つことも可 ○個別の指導計画の提出（学部主事） 書式，誤字等の修正	○諸票簿の内容確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
8月	○指導の記録の作成 指導の結果に応じて個別の指導計画の修正	
9月	※通信票の作成 ○指導の記録の提出（学部主事）	
10月	○2学期の実践	○指導の記録の助言 ○㊦3年性 個別面談の計画提示
11月 12月	※高等部3年 個別面談の実施	○㊦㊧㊨個別面談の計画提示 ○指導記録等提出物の確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
1月	○指導の記録の作成	
2月	※個別面談 1年間の結果を説明し，今後の課題を確認 ※通信票の作成	○通信票下書きの助言 ○通信票修正の確認
3月	○指導の記録の提出（学部主事） 修正後，個人ファイルに振り分けて引き継ぐ	○指導の記録の助言 ○引き継ぎ書類の確認 →個人ファイルに振り分け

※個別面談

6月：個別の指導計画に関しては口頭で作成状況の報告と参考になる事項の聴取を保護者に対して行います。

2月：1年間の指導の経過や結果を口頭で保護者に報告します。

※個別の指導計画作成会議

学級内でTTが集まり，個別の指導計画を読み合わせて検討する会議です。客観性と専門性を確保するための会議になります。教務から3日間日程が割り当てられますので，それらを軸に日程を調整してください。